

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273400265		
法人名	医療法人社団 恒久会		
事業所名	グループホーム ならわの家		
所在地	千葉県袖ヶ浦市奈良輪718-1		
自己評価作成日	平成30年1月1日	評価結果市町村受理日	平成30年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外部評価結果をもとに作成した目標達成計画の実現に向け、運営推進会議や家族会で協力をいただき取り組んできた。日常的な外出支援では、中庭に花を植えたり散歩に出たり、地域との交流も積極的となってきた。保育園や中学生との交流もある。災害対策でも地域代表の方の役割を確認することができた。
職員研修も参加する機会をつくり、質の向上へとつなげている。協力病院の医師や看護師と連携を図り、体調変化時に対応できている。その協力もあり看取り介護の支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは外部評価を活かし質の向上を目指しており、見出した課題を目標達成計画に落とし込み取り組んでいる。とくに、運営推進会議や家族会で取り組みについて報告し、参加者から意見をもらいながら改善に反映させている。また、外出支援にも力を入れており、家族に利用者の外出の状況を伝えたり、家族から利用者の情報を得るなどして支援に活かしている。ホームの母体は医療機関であり、看護師の週1回の訪問や主治医の月2回の往診、24時間のオンコール体制などで利用者の健康や体調の管理をしており、利用者、家族及び職員の安心につながっている。現在、ターミナルケアにも取り組むなど、利用者や家族のニーズに対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に掲示している。管理者と職員が共有し、常に意識し実践につなげている。	ホームの理念をフロアや事務室など、利用者や職員の目に入るところに掲示している。サービスを提供する際は理念を意識し、業務を優先しないよう心掛けている。ホームだよりには常に理念を掲載し、理念が実践がされているかを家族に見てもらおうようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域代表の方より地域の情報の提供を受けている。散歩に出た時には近隣の方と挨拶や話している。ボランティアの受け入れもしている。中学生の職場体験や保育園との交流がある。	利用者の普段の散歩では近隣住民と挨拶を交わしている。ボランティアも受け入れており、傾聴や食材の仕分け、グループで歌謡ショーをやってくれる人などが来訪している。そのほか、地元の中学生の職場体験や保育園児との交流を定期的に行うなど、地域との付き合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや職場体験開始の際は、認知症について説明し広めている。運営推進会議では対応についての報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の取り組みについて報告や話し合いを行い、サービス向上に活かしている。その内容は家族会や評価へつなげている。	運営推進会議は地域の知見者や市の担当課、民生委員、家族代表などの参加で開催している。会議は利用者の状況や活動報告後に、外部評価から見出した課題について議題として取り上げ話し合うなど、双方向の会議になっている。そこでの意見をサービスに反映させており、会議を活かしていることがうかがえる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者へ出席していただき、取り組みの様子等お伝えしており関係を築いている。月に1度市の相談員にも来所していただいている。	市の担当課の職員が運営推進会議に参加しており、ホームの現状や取り組み等を報告している。介護相談員も毎月来訪しており、活動内容を共有している。また、ホーム職員が市の介護保険運営協議会や認定審査会のメンバーや委員を引き受けるなど、行政との協力関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。検討事項は申し送り等で情報共有を行い実践している。	虐待防止や身体拘束に関する研修は毎年実施し、職員は理解を深めている。危険防止のためやむを得ずベッド柵等を使用する場合は、家族の同意を得ている。普段の言葉遣いについてもお互いに注意し合うほか、接遇委員も配置しており、毎月標語を掲げるなど利用者を尊重したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束0(ゼロ)への手引き」を活用し勉強会を行っており、言葉遣いや対応に注意している。接遇委員もおり職員同士声をかけ合い虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を希望されたご家族の相談を受け、活用できるよう支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの見学に来ていただき、相談を受けながら重要事項説明書にて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議等で意見を聞いてサービスに反映させている。玄関にご意見箱も設置している。また、市役所担当課が外部相談窓口であることを説明している。	年2回、家族会を開催し、外出支援などについても意見交換をしている。その他、運営推進会議や意見箱、メールなど多様な方法で家族等の意見を把握し、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や事業所会議の時に意見を聞く機会を設け反映させている。	月1回の勉強会や事業所会議で職員の意見を聞く機会を設けている。事業所会議にはリーダー職員が参加し、フロアの意見を持ち寄り会議に臨んでもらっている。参加していない職員は議事録で確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い勤務状況を把握している。また、年1回意向調査を行い、職員の意向を把握し職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会の機会を設け、また法人が年間で計画している研修にも参加させている。外部の研修にも参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修や行事で他事業所職員との交流の機会を作っている。情報交換を行いサービス向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人より情報収集を行い、本人の困っていることや不安なことなどを聞き、安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや不安に思っていることに耳を傾けながら、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から必要性を把握し、他のサービスも含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることや会話の中からやりたいことを見つけ一緒にいき、共同生活としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会で日々の様子を伝え協力を依頼するなどしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会時、ゆっくりと話ができるよう心がけている。手紙や電話でも関係が継続できるよう支援している。	利用者の友人、知人の訪問があった際は居室でゆっくりと話をしてもらうようにしている。また、行きつけの美容院に出かけたり、一時帰宅、手紙のやりとり、電話の取次ぎなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席に配慮し、コミュニケーションがとりやすいように努めている。レク等でも交流できるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要時支援を行うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を中心に希望や意向の把握に努め、情報を共有しケアプランに反映させるよう努めている。	入浴や食事など、日常生活の中でゆっくりと向き合う時間をつくり、利用者の思いを聞くようにしている。把握した意向は検討して、実現できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴など話を聞き、今までの環境をなるべく変えずに生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや健康状態、ADLなどの把握に努めている。残存機能を発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向、職員の意見などを反映しプランを作成している。	入居時にアセスメントを基に介護計画を作成し、1週間ほど様子を見て、担当者会議を開催して介護計画を決定している。居室担当職員は毎月モニタリングを行い、計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を日々記録し情報共有している。朝夕の申し送りで情報を共有し、実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応し、柔軟なサービス提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や外出行事、ボランティアの訪問等で地域の方との交流により、暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を主治医とし往診や医療連携訪問、受診等で日々の体調を管理している。	医療連携をしている医院から月2回往診に来てくれる。年1回の健康診断、毎週の看護師訪問などで、健康管理をしている。専門医受診は家族に依頼しているが、場合によっては職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携訪問時に体調変化や気づき等を看護師に報告、相談を行い、指導や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い日常の様子(食事、排泄等)を伝えている。入院中にも確認等を行い、退院時は入院中の様子や注意点など確認し関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師と相談しながら今後の方針について話し合っている。ターミナルケアは勉強会で学んでいる。運営推進会議でも話し合いを行い、地域の方やご家族からも意見をいただいた。	入居時に医療連携体制についての同意書とともに重度化した場合の指針、看取りに関する指針を提示している。現在看取りの体制にある利用者もおり、ターミナルケアについて職員の研修を実施し、利用者家族の宿泊もできるように環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で学んでおりマニュアルも作成されている。医療連携の看護師からも指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い災害時の動き等確認している。運営推進会議でも話し合いを行い、有事での協力体制を確認した。	年2回の消防訓練は夜間想定も含め定期的実施している。行政のハザードマップによると風水害の危険は少なく、地震時の避難先は隣接する法人の施設と決めている。地域の人とは話し合いの上、見守り役を担ってもらう事で同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、不快感を与えないような言葉かけやコミュニケーションを心がけている。否定をしないような対応をしている。	尊厳を大切にした対応を心がけている。原則として名前を呼びかける時には苗字で呼んでいる。また、ホームだよりに写真や名前を掲載する時は了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子や会話などから本人の思いを引き出し自ら決定できるよう声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペースに合わせて、職員同士も声かけを行いながら本人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に着る服を選んでもらったり、鏡を見ながら髪をセットしたりひげを剃れるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や盛り付け、テーブル拭きやお茶入れなど一緒にしていただいている。食事でも会話を楽しみながら一緒に行っている。	法人の管理栄養士が作成した献立をもとに、職員が調理している。また、レクリエーションの一環でバレンタインのチョコレートづくり、おはぎや柏餅づくりも楽しみとなっている。利用者はテーブル拭きや、野菜の下ごしらえやお茶を入れるなど、できることで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がメニューを考え、食事や水分量など看護師と連携をとっている。食事もその人に合った大きさや軟らかさにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアや舌みがきを行っている。不十分な方は声かけし介助している。夜間は義歯を預かり消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンや排泄サインを見てトイレ誘導やパット交換を行っている。自立できるよう支援している。	利用者の様子を見ながらトイレ誘導し、できる限り自然な排泄と自立に向けた支援ができるように努めている。夜間はポータブルトイレやリハビリパンツなども使用しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動の声かけを行っている。看護師や医師に報告し薬剤の調整を行っている。栄養士にも相談し、腸の働きを促進する食べ物も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に確認し快適に入浴できるよう順番や時間帯も確認している。	入浴は週2回を基本としており、時間や順番はできる限り利用者の意向に沿うようにしている。誘導の際に入浴したくないという利用者がいれば、時間や人を変えて声かけするなど工夫をしている。また、ゆず湯の季節には家族や近隣住民からのゆずの差し入れがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて休息を支援している。照明や室温などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診や医療連携にて医師、看護師、薬剤師と連携を図っており、職員間でも情報を共有し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できることを見つけ役割をもっといただくことで張り合いがもてるよう支援している。花を育てたり散歩をしたり気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそって散歩に出かけている。外出行事では家族や地域の方にも協力をいただいている。	近隣の散歩や買い物、時には病院の薬をもらいに行くこともある。外出の企画を立てており、家族も参加して、芝桜見物やミカン狩りなど季節の行事も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行ったときはご自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や温度調節に配慮し、花を活けたり掲示物も変えて季節感を感じることができるよう配慮している。	共用空間は清掃が行き届き、掲示物も整理されており、すっきりとしている。法人で環境整備も行っており、車いすでも移動しやすいように安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳などでゆっくり話をしたり過ごせるようになっている。食事席も会話を楽しめるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや使い慣れたものを持参してもらい居心地よく過ごせるようにしている。看取りの人の居室は、家族が寝泊まりできるよう配慮している。	居室は洋室と和室がある。各居室は、自宅から持ってきた家具や写真を置いて、利用者が居心地よく過ごせるような部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など分かるように表示をつけ、廊下やトイレ、浴室には手すりをつけている。居室のダンスはご自身で出し入れできるようズボン、下着等の貼り紙をしている。		